

基幹教育センターニュース

No. 4 2017年7月

～当センター発足2年目を迎えて～



学長 今泉 勝己

基幹教育センターは活動2年目を迎えました。昨年同センターを訪れ、スタッフによる数学や物理の個別指導を受けた学生は、延べ600人に達しました。物理や数学の基礎学力の向上は、工学の専門課程でのスムーズな受講には欠かせません。本学2年生に対する入学1年後の大学生活に関するアンケートでは、大学生生活に満足していると8割程度が回答していますが、同センターを訪れた学生は、ほぼ全員が満足と回答していました。同センターが本学学生にとって身近で有用な存在となりつつあるのは、頼もしいことです。新年度から、基礎教育振興のため、同センターに学科、教員、事務組織の枠を超えた次の3つの部門を設けました。①知識、理解を深める理数基礎教育部門、②思考、判断を強化する学士課程基礎教育部門、③学修データの分析、活用に関わる教学IR部門。部門間の協力体制を整え、同センターが本学の特色ある組織として成長し、さらなる教育の改善、充実につながることを願っています。

基幹教育センター長 巨海 玄道

昨年センターが立ち上がった時、その運営について多々不明な点が多く、不安の中の船出であったが関係者の努力のおかげで曲がりなりにも2年目を迎えている。2年目を迎えて安定したか・・・？という残念ながら新たな課題やいろんな人の異なる考え方など運営も多様性の集合のようなものとなり一向に「安定」とはいかない。つくづく教育は多様性とそれを受け入れる柔軟性が必要だと痛感する。昨年度伸び600人を超える利用者がいたが、本センターはその数を競うようなものではないが現在のセンターの能力を考えるとそこにはおのずと限度がある。例えば1人の学生が相談に来た場合その対応に何時間が適当か・・・？これは相手の相談内容と学力のレベルによる。即ち3時間を超える時もあれば1時間以内で終わる時もある。また担当教員にもよる。今年度はこのような点を改善し効率的な指導を心がけて行きたいものである。

☆H29年度前期時間割表：ラーニングコモンズには次の時間帯に数学・物理の教員が詰めています（変更可能性あり）

	月	火	水	木	金
1		酒見(物実)		酒見(物実)	酒見
2		原 酒見(物実)	酒見(物実)		
3	諏訪辺		諏訪辺	諏訪辺	諏訪辺
4	諏訪辺	江藤(徹)	諏訪辺	諏訪辺 酒見	諏訪辺
5	金井・中嶋	中村(文) 酒見・野田	諏訪辺 酒見	諏訪辺 酒見	諏訪辺 酒見(物実)
	数学	※諏訪辺・・・12～18時			
	物理	※(物実)・・・物理実験室			
	数学・物理				

■利用の仕方

- ・数学と物理の2科目を中心にサポートします。学年は問いません（但し、1年生を優先）。質問がある場合は、時間割を参考に100号館2階のラーニングコモンズに来て下さい。予約は必要ありません。
- ・学科毎に時間と担当教官を振り分けていますが、急な質問がある場合は限定しません。待機中の教官に気軽に声を掛けて下さい。
- ・授業中に指導依頼票を受け取った学生は、来室時に持参して下さい。



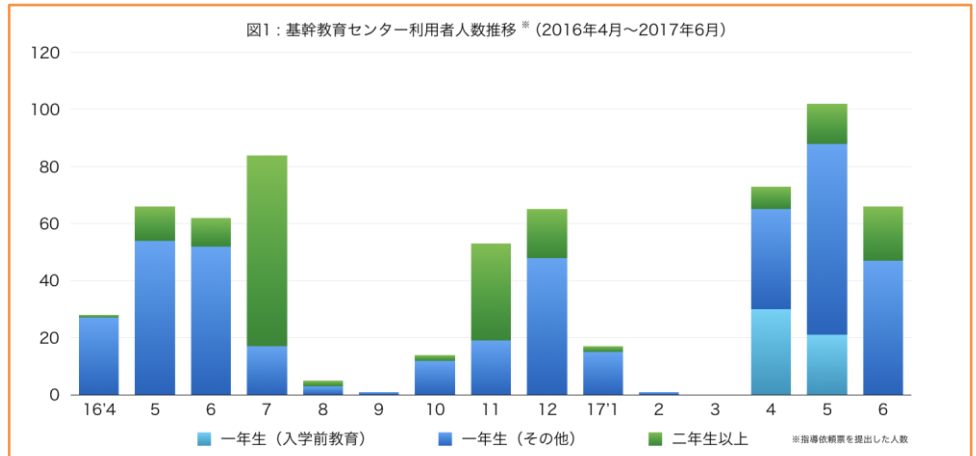
◆ 最近の基幹教育センター ～こんなことをしています～

入学前教育および利用状況について

基幹教育センター 助教 酒見龍裕

入学前教育・・・基幹教育センターでは、今年度の一部の入学学生に対し、入学前教育を実施しました。入学前教育とは、入学前に課題を与え、学習期間が空くことを避けるとともに、基礎学力向上を目的とした教育です。基幹教育センターでは、入学後に課題を回収し、個別指導を行ってきました。4月の利用者数のうち、およそ4割の学生が入学前教育に関するものでした。入学前教育が終わった学生もリピーターとして再度訪れることで、5月は月間最高の102名の利用者を記録しました（図1）。

利用状況・・・本学では、昨年度から基幹教育センターを開設し、授業の予習・復習やレポートなど、勉強に関する質問を受け付けています。今年度は4月に70名以上が利用し、前年同月比で約3倍に増えています。また、今年度4～6月には計245名の学生が利用し、利用者数は昨年と比較して増加傾向を見せています（図1）。



◆ 各学科の先生より・・・

基幹教育センターへ期待すること

建築・設備工学科長 大森洋子

建築・設備工学科は建築デザインや建築史等の文系科目から、構造力学や環境工学等の理系科目まで様々な分野の授業があり、卒業後の職種も高度な数学を必要としないものもあることから、文系科目で受験することも可能です。それ故、数学の習熟度がかなり異なる学生が入学してきます。とは言え、どの学生も授業を理解する程度の数学の知識は必要です。中学の数学レベルでつまづいた学生には、何が分からないのか要因を丁寧に探る必要があります。それは一斉授業の中では、たとえ習熟度別の少人数授業であってもかなり難しく、個別指導でしか達成できないのではと思います。基幹教育センターでは学生個人の能力に合わせて時間をかけて基礎的なことを指導されています。数学を教えることのプロである先生方に熱心に指導頂き、少しでも数学の苦手意識がなくなる学生が増えることを期待しています。

◆ 私たち、SA(Student's Assistant)です！

授業を担当される先生方と連携を取りながらTT（チームティーチング）をすることができて、学べることが多くありました。学生に理解してもらい難しさや、授業を円滑にするための先生へのサポート等、将来教員を目指す上で必要な言動を学べ、充実した時間を過ごすことができました。また、機会がある時には参加したいと思います。

(阿武 京花 教育3年)



実際に指導してみて、多くの事を学べました。基礎・標準・発展とコースが分れ、それぞれで教え方にも工夫をしなければならず大変でした。積極的に質問してくれない生徒には、こちらから声掛けをすると生徒も分からない箇所を聞いてきてくれたので良かったです。

(石井 奨悟 教育3年)



実際に学生さんを指導してみて基礎、標準、応用のそれぞれのクラスで違った指導がありました。基礎クラスの学生さんのように概念や式の意味から教える苦勞や、応用クラスの学生さんのように応用問題の解き方を理解させるまでの苦勞は、教員を目指す者には非常にいい経験になりました。

(荒木 宏斗 教育3年)



◆ お知らせ

研究会の開催：「理数授業における ICT 機器の活用とアクティブ・ラーニング型授業」第2回研究会

日程：2017年8月19日（土）10～16時頃（予定） 午前…招待講演 午後…事例報告と ICT 機器体験会

場所：本学 100号館 9階 理科実験室 問合せ先：教育創造工学科 中村文彦 (fumihiko@kurume-it.ac.jp)

